令和５年３月 16 日（木）
第 31 回石西礁湖自然再生協議会

資料２－１

環境省事業の実施状況について

環境省では、「石西礁湖自然再生事業環境省事業実施計画」に基づき、モニタリング調査、サンゴ群集修復事業、オニヒトデの駆除および分布監視、陸域負荷対策のための連携強化、持続的な利用に関する対策および意識の向上・広報啓発等の事業を実施している。

○石西礁湖サンゴ群集モニタリング調査

令和４年度は、調査発注の遅れ及び大規模な白化現象が発生したことを受け、例年と下記の変更が生じた。

・海洋観測モニタリングブイの観測機器のメンテナンス及び測器不良があったことから、水温塩分計９月６日～10 月５日までの１か月間、クロロフィル、濁度計：４月１日～10 月５日までの６カ月間欠測、波高計：６月 23 日～10 月５日までの３カ月半欠測、流向流速計：７月 27 日～10 月５日までの２カ月半欠測
・「スポットチェック法による白化等調査」は６月と９月予定から、９月と 10-11 月、12 月に一部延期の上追加実施
・「造礁サンゴ類の経年変化把握（コドラート調査）」は７-８月予定を 10-11 月に実施
・「サンゴ種別白化調査（ポイント調査）」「一年生稚サンゴの加入量」「クシハダミドリイシ個体群構造把握」は９月のみの予定を 12 月に追加実施
・「サンゴ幼生の定着量」の定着板回収は９月予定を 10-11 月に実施

⇒資料２－２

【報道発表】石西礁湖のサンゴ白化現象の 2022 年 12 月調査結果について
https://www.env.go.jp/press/press_01336.html

○石西礁湖サンゴ群集修復事業

これまでの結果を踏まえ、大規模な白化現象が再び発生しても有効性を失わない事業を目指し、①幼生の供給量（源）を増やす（受精効率を高める）こと、②幼生が着生しやすい基盤を整えること、③サンゴ群集の回復力を維持、強化させることの３点を主眼に、令和２年度に事前調査（適地選定）と計画策定を行った。令和３年度から現地試験を開始している。　　　⇒資料２－３

○オニヒトデ

令和４年度も監視駆除を継続実施しており、結果は取りまとめ中であるが、現時点で大発生の兆しは認められていない。（参考：総駆除数は、令和２年度が 39 匹、令和３年度が 22 匹。）

また、今年度から新たに、直径１cm 未満の稚オニヒトデを対象とした分布調査と、漁業や観光業の事業者向けの稚オニヒトデ探査技能講習会を実施。

○普及啓発活動

子どもパークレンジャー事業により総合学習の時間を活用した環境学習機会の提供と学習効果の測定をしている。令和４年度は、川平小中学校、崎枝小中学校の児童生徒を対象に室内や野外において計８回のサンゴ学習を行った。

また、スノーケルを用いたサンゴの自然観察会「海の自然教室」を８月に真栄里海岸で、10 月に米原海岸で実施したほか、自然観察会等の機会が少ない石垣島北部地域において６回の自然体験プログラムを実施した。

＜運営事務局＞

○令和４年度自然再生全国会議石西礁湖大会 受入れ協議会運営

新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大防止のため令和２年度から延期を重ねた「自然再生全国会議石西礁湖大会」が、令和５年１月 24 日に開催された。受入れ協議会として、石西礁湖自然再生協議会委員による現地調査の実施及び全体会議における報告の補助等を行った。

出席委員（順不同、敬称略）

- 土屋 誠
- 吉田 稔
- 八重山漁協サンゴ種苗生産部会 （岸本 麗、名嘉 貴也、砂川 優海、小林 鉄郎）
- 沖縄総合事務局石垣港湾事務所 （橋本 雷士）
- 竹富町役場自然観光課 （安生 浩太）
- 石垣市役所環境課 （上地 永一）
- わくわくサンゴ石垣島 （大堀 則子、大堀 健司）
- NPO 法人石西礁湖サンゴ礁基金（鷲尾 雅久）
- いであ株式会社沖縄支社 （石森 博雄、佐藤 博紀）

みなさま、ご協力くださりありがとうございました。